

## ★補足—「●フィンランド語理解のための訳例」について①

資料IV-6まで来てしまいましたが、次のような説明を加えておきます。

### ①受動形について

「●フィンランド語理解のための訳例」では「受動形(受)」という表現を使っています。ただし、フィンランド語の passiivi「受動形」は厳密に言えば「受動形」とは言えないかもしれません。たとえば次の文を見てください。

Suomessa juodaan paljon kahvia.

この文を「フィンランドではたくさんコーヒーが飲まれる」という日本語にすることに何も問題はありませぬ。ただし、フィンランド語で受動形を使う文では、行為や動作などの主語を表現することはありません。つまり、上の文でいえば「飲む」の主語に相当するものを表現しない場合に使われるのが受動形です。それは、たとえば日本語で「日本では冬にはよく鍋を食べる」という場合と似ています。この日本語では「食べる」の主語は表現されていませんが、日本語話者にとっては何も問題はありません。実はフィンランド語の受動形は、このような日本語に相当するものだと考えた方がよいと思います。そして、フィンランド語では自動詞も受動形になりますが、これを「～される」といった受動の意味でとらえるには無理があります。たとえば次のような文を見てください。

Maalla eletään rauhallisesti.

この文を日本語にするとすれば「田舎では穏やかに暮らしている」とでもなるでしょう。もちろん「穏やかに暮らされている」と訳してもかまいませんが、非常におかしな日本語になってしまう気がします。結論をいえばフィンランド語の「受動形」は厳密に言えば「受動形」ではなく、「～する」の主語に当たるものを表現しないときに使う形です。つまり、「日本では冬にはよく鍋を食べる」というときの「食べる」に相当するのがフィンランド語の受動形 syödään です。そして、フィンランド語では受動形を含む文には動作や行為の主語は登場しません。それでは最初に挙げたフィンランド語の文の中の kahvia は何かというと、これはあくまでも目的語です。つまり、最初に挙げた文は「フィンランドではたくさんコーヒーを飲む」と訳す方が私は適切だと思います。

さて私の作っている資料の「●フィンランド語理解のための訳例」では、受動形は可能な場合には「～される」という日本語にしてあるかもしれません。さらに、目的語はあくまでも目的語ですので、原則として「～を」と訳してある可能性があります。たとえば、最初に挙げたフィンランド語は「★フィンランド語理解のための訳例」の中では次のように訳すことがあるかもしれません。

フィンランドで|飲まれる|たくさん|コーヒーを。

「コーヒーを飲まれる」というのは確におかしいのですが、あくまでも「フィンランド語理解のための訳例」ですので、このようにしてあります。わかりづらいかもしれませんが、ご容赦ください。

## ②接続詞について

これまで個別には触れてきたかもしれませんが、相関接続詞については「●フィンランド語理解のための訳例」の中では表記しづらいので、次のようにすることにします。

・sekä ~ että ... 「～と…と両方」

これについては「●フィンランド語理解のための訳例」の中では、原則として「～|そして|…|」というように表記します。

・joka ~ tai ... 「～か…のどちらか」

これについては「●フィンランド語理解のための訳例」の中では、原則として「～か|…のどちらか|」というように表記します。

・niin ~ ... kuin 「～も…も」

これについては「●フィンランド語理解のための訳例」の中では、原則として「～|同様に|…|」というように表記します。

## ③hyvinvointi の訳について

hyvinvointi という語は日本語にすれば「福祉、厚生、健康、幸福、豊かさ」などに相当すると思います。状況に応じて訳し分けようと思いますが、原則として「福祉・厚生」と訳すことが多くなると思います。